

子どもの本と文化を、子どもの未来のために—

令和 5 年度

事業報告

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

INTERNATIONAL INSTITUTE FOR CHILDREN'S LITERATURE, OSAKA

令和5年度 事業報告

令和5年度におきましても補助金等を活用し、文化庁の文化芸術振興費補助金を得て、「明治・大正・昭和初期の子ども向け雑誌」9誌の貴重な資料の保存・公開のためのデジタル化事業、子どもゆめ基金の助成を受けて、「読書活動支援ソフト「本の海大冒険」のリニューアル、および日本学術振興会科学研究費助成事業として5件の研究等に取り組みました。

「大阪府立中央図書館 国際児童文学館」に専門員が配置されていない運営については、当財団として懸念を抱くところではありますが、「国際児童文学館」が所期の目的であります、貴重な資料を収集・保存・活用し、円滑に事業を実施できますよう、従前どおり大阪府および中央図書館と連携・協力を図るとともに、受託しております寄贈資料の受入れ業務に務めたところであります。

令和5年度決算につきましては、収入では、子どもゆめ基金助成金(教材開発)等の増加がありましたものの、寄付金収入が大口寄付のありました前年度より減少し、約381万円の減となりました。支出につきましては、教材開発の純増や国際グリム賞が表彰年であったこと等により前年度比約804万円の増となっております。寄付金収入につきましては、令和2年の移転10周年記念寄付以降も、毎年度500万円の目標額を設定し、広くお願いをしているところですが、個人の方からの大口寄付がありました前年度より約1082万円の減となりました。正味財産期末残高は例年600万円ほどの減少が続いておりましたが、今年度は約478万円の減少となっております。通年ベースとしては、依然厳しい収支状況であり、引き続き安定的な運営ができるよう努力をしております。

「公益目的支出計画」につきましては、今回の決算が計画期間の最終年度でありましたが、さらに4年延長し、完了予定日を令和10年3月31日に変更することについて、大阪府の認可を受けました。今回の決算から、公益目的財産残額約4660万円を5年間で使い切る新しい公益目的支出計画を遂行することとなっております。

個々の事業については、令和5年度事業報告3頁以降の[公益事業の部]、[収益事業の部]にもとづき以下に報告します。

○役員会等の開催状況

1. 評議員会

回	開催年月日	議事内容
第1回	5.5.2	(1)評議員の選任について (2)理事の選任について
第2回	5.6.21	(1)評議員の選任について (2)令和4年度収支決算について (3)公益目的支出計画の変更認可の申請について (4)令和4年度事業報告について(報告) (5)令和5年度補正予算について(報告)
第3回	6.3.29	(1)令和6年度事業計画について(報告) (2)令和6年度収支予算について(報告) (3)令和5年度事業の執行状況について(報告) (4)公益目的支出計画の変更認可について(報告)

2. 理事会

回	開催年月日	議事内容
第1回	5.4.25	(1)評議員会の招集について
第2回	5.6.21	(1)令和4年度事業報告について (2)令和4年度収支決算について (3)令和5年度補正予算について (4)公益目的支出計画の変更認可の申請について
第3回	5.6.21	(1)理事長の選定について (2)常務理事の選定について
第4回	6.3.29	(1)令和6年度事業計画について (2)令和6年度収支予算について (3)令和5年度事業の執行状況について (4)公益目的支出計画の変更認可について

[公益事業の部]

I 講座、講演会等を通した子どもの本の普及活動

下記講座等を、主催事業または講師派遣により実施し、ボランティアとの協働をすすめることにより、子どもの読書活動を推進した。

1. 大人向け講座・講演会

(1) 指導者養成のための講座

①子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員等への本の選び方や読書活動のありように関する研修、講座のための講師を派遣した。

- ・実施回数：28回
- ・講座内容：本を選ぶ・本を読む・新しい本の紹介・読書活動について等
- ・対象：文庫・読書活動ボランティアグループ、司書・学校司書・教員、その他

②「2022年に出版された子どもの本」

- ・配信日：令和5年7月15日（土）～12月15日（金）
- ・場所：オンライン
- ・内容：「2022年に出版された子どもの本」
- ・講師：土居安子（当財団）
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体等
- ・参加者：150人

③「気になる本を読む会」

「学校司書研究会」とともに、大阪府域の学校司書と毎月テーマを決めて読書会等を行う研究会を実施した。（12回）

(2) 保護者や子どもの本に関心のある人へのアプローチ

①国際講演会

「イタリアの絵本作家フランチェスカ・サンナ 自作を語る」の実施

- ・開催日：令和5年10月7日（土）
- ・場所：大阪府立中央図書館 多目的室
- ・講師：フランチェスカ・サンナ（イタリアの絵本作家）
- ・通訳：松下宏子（関西大学非常勤講師ほか）
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：32人

*主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

*子どもゆめ基金助成活動

*賛助企業：サントリーホールディングス株式会社
ムサシ・アイ・テクノ株式会社

②フォーラム

「児童文学とは何かを問い続けて 三宅興子の仕事を顧みる」の実施

- ・開催日：令和5年12月17日（日）
- ・場所：大阪府立中央図書館 多目的室
- ・内容：展示とのコラボレーションで、三宅興子の仕事を顧みるフォーラムを行った。
- ・講師：多田昌美（美作大学教授）、藤井佳子（大阪公立大学非常勤講師）、松下宏子（関西大学ほか非常勤講師）
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：58人

*主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

*後援：大阪府立中央図書館

*子どもゆめ基金助成活動

③講演会 「児童文学のしあわせ」の実施

- ・開催日：令和5年9月16日（土）
- ・場 所：大阪府立中央図書館 多目的室
- ・講 師：八束澄子（児童文学作家）
- ・対 象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：71人
- *主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団・気になる本を読む会
- *協 力：大阪府立中央図書館
- *子どもゆめ基金助成活動

④フォーラム

「第40回 日産 童話と絵本のグランプリ」表彰式
「40周年記念フォーラム：童話を語る・絵本を描くー童話・絵本のつくり手を目指すみなさんへー」の実施

- ・開催日：令和6年3月9日（土）
- ・場 所：大阪府立中央図書館 ライティホール
- ・配信日：令和6年5月17日（金）～
- ・内 容：童話・絵本の創作やグランプリ応募にあたっての具体的な助言
- ・講 師：黒井健（絵本画家）、高島純（絵本作家）、富安陽子（童話作家）、吉橋通夫（児童文学作家）
- ・進 行：宮川健郎（当財団理事長）
- *主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
- *協 賛：日産自動車株式会社

⑤講演会

「第39回 日産 童話と絵本のグランプリ」表彰式
特別講演「絵本の絵を描く」の配信

- ・開催日：令和5年3月4日（土）
- ・配信日：令和5年4月28日（金）～令和6年5月17日（金）
- ・内 容：絵本の絵を描くとは
- ・講 師：黒井健（絵本画家）
- ・視聴回数：2001回
- *主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
- *協 賛：日産自動車株式会社

⑥国際シンポジウム「中由美子と中国児童文学の世界」の実施

- ・開催日：令和5年11月26日（日）
- ・内 容：2022年11月に亡くなられた、中国児童文学翻訳者である中由美子さんの仕事を振り返り、中国語圏児童文学の魅力について語り合う。
- ・講 師：秦文君（作家、中日児童文学美術交流中心会長）ほか
- ・対 象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：53人（オンラインを含む）
- *主 催：日中児童文学美術交流センター・中国児童文学研究会・一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

⑦日本児童文学学会関西例会（第153回、154回）

- ・開催日：令和5年5月20日（土）、9月30日（土）
- ・場 所：大阪府立中央図書館多目的室
- ・内 容：
第153回：講演：「子どもの文学・文化研究に携わって」
島山兆子（梅花女子大学名誉教授）＋研究発表
第154回：ラウンドテーブル「日本における中国児童文学の翻訳」
成實朋子（大阪教育大学）、寺前君子（中国児童文学研究会）、浅野法子（大阪成蹊短期大学）＋研究発表

- ・対 象：児童文学研究者、教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：49人（153回）、30人（154回）
- *主 催：日本児童文学学会関西例会
- *共 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
- *協 力：大阪府立中央図書館

⑧英語圏児童文学会 西日本支部 夏の講演会

- ・開催日：令和5年6月24日（土）
- ・場 所：大阪府立中央図書館多目的室
- ・内 容：
 - 講演：「絵本にみる生態想像力ー「生きているものどうし」の関係を想うことー」
 - 講師：山本一成（滋賀大学教育学部 准教授）
- ・対 象：児童文学研究者、教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：20人
- *主 催：英語圏児童文学会 西日本支部
- *共 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
- *協 力：大阪府立中央図書館

(3) 子どもの本の魅力や子どもと本を共有することの大切さを伝える講座のための講師や審査員を派遣した。 17回

子どもの本を楽しむ会 11回

保護者・一般向き児童文学・絵本講座、絵本作家との対談 6回

参考：「講演と新刊紹介 2022年に出版された子どもの本」（大阪府立中央図書館主催）の参加者：会場125人+オンライン834人（無料）

審査員：5件

第19回大阪こども「本の帯創作コンクール」

令和5年度「心の輪を広げる体験作文」審査（大阪府福祉部）

第42回人権啓発詩・読書感想文審査会（大阪府府民文化部）

大阪いずみ市民生活協同組合「コープのえほんでスマイル」専門委員会 他

2. 本と子どもを結ぶ活動

(1) 小学校や美術館等で美術と絵本を楽しむイベント等を計9件実施した。

小学校（2回）、ちっちゃなこどもびじゅつあー（国立国際美術館）（3回）

日中韓子ども童話交流2023（韓国）、おはなし作り（同志社国際学院初等部）、JBBY子どもの本の日フェスティバル、「本で世界を旅しよう」（生駒）

(2) 児童養護施設でのおはなし会の実施

新型コロナウイルス感染症拡大防止やインフルエンザのため訪問できなかった。

(3) 図書館等でのおはなし会・人形劇の実施

①大阪府立中央図書館こども資料室でのおはなし会を実施した。（5回）

②吹田市立山田駅前図書館でのおはなし会を実施した。（2回）

出 演：職員、おはなしポップ

(4) 図書館等での街頭紙芝居の実施

街頭紙芝居の実演を行った。

・事業名：むかしの紙芝居を楽しもう

・開催日：令和5年11月4日（土）

・場 所：大阪府立中央図書館

・出 演：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館

*主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

*協 力：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館

(5) 「おはなしモノレール」の実施

子どもが絵本や物語の世界の楽しさを知り、より本に親しむきっかけづくりと親子のふれあいの機会の創出を目的として、平成19年度から実施している、貸し切りモノレールの中でのおはなし会と彩都での「パネルシアター」を楽しむ子ども向けイベント「おはなしモノレール」を実施した。

- ・開催日：令和5年9月18日（月・祝）
- ・定員：240人（申込者：496人 約2.1倍）
- *協賛：大阪モノレール、阪急阪神不動産株式会社、株式会社ベネッセコーポレーション
- *協力：彩都（国際文化公園都市）建設推進協議会
- *子どもゆめ基金助成事業

(6) ワークショップ

「イタリアの絵本作家フランチェスカ・サンナと絵本をつくろう！」の実施

- ・開催日：令和5年10月8日（日）
- ・場所：大阪府立中央図書館 多目的室
- ・講師：フランチェスカ・サンナ（イタリアの絵本作家）
- ・対象：小学生
- ・参加者：15人
- *主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
- *子どもゆめ基金助成活動
- *賛助企業：サントリーホールディングス株式会社
ムサシ・アイ・テクノ株式会社

3. ボランティアの参加と協働による事業の充実

(1) ボランティア研修講座の開催

- ・回数：3回（自主研修）
- ・対象：令和5年度ボランティア登録者
- ・内容：おはなしの選び方・覚え方・語り方、絵本の選び方

(2) ボランティア登録者の事業参加

当財団のボランティア研修講座及び人形劇講座を修了したボランティア登録者に、上記2「本と子どもを結ぶ活動」の各種事業等への参加を求め、協働することによって事業の充実を図った。あわせて、財団事業の広報チラシ配布等についても協力をお願いした。

①おはなしポップ

- ・登録者数：18名
- ・活動回数：8回
- ・活動場所：おはなしモノレール（1回）、大阪府立中央図書館（5回）、吹田市立山田駅前図書館（2回）、

②人形劇サークルばれっと

- ・登録者数：4名
- ・活動回数：1回（おはなしモノレール）

II 子どもの本の文化に親しむ機会の提供

○創作童話・絵本の募集コンクール

「第40回 日産 童話と絵本のグランプリ」事業を実施した。

- ・応募数：童話1,490点（前年1,806点） 絵本277点（361点）
計1,777点（2,167点）
- ・童話予備審査：令和5年11月9日（木）～12日（日）
- ・絵本予備審査：令和5年11月15日（水）
- ・童話本審査：令和5年12月7日（木）
- ・絵本本審査：令和5年12月8日（金）

- ・表彰式：令和6年3月9日（土）
- ・入賞作品展示：令和6年1月12日（金）～3月24日（日）
大阪府立中央図書館
- *協 賛：日産自動車株式会社

Ⅲ 教材開発を通じた子どもの読書活動の推進

1. 「本の海大冒険」の開発・更新・普及
ウェブサイト上で、子どもがクイズをしながらお気に入りの本を探すことのできる読書活動支援ソフト「本の海大冒険」をYouTube版「本の海大冒険」と連携させ、図書データの追加更新と普及に努めた。
*協 力：株式会社ジャスティス
*子どもゆめ基金助成活動
2. 「マンガのひみつ大冒険！ おすすめマンガがいっぱい！！」の普及
子どもと子どもに読書をすすめる大人を対象に、マンガを通じた読書の楽しさや広がり、検索したり、遊んだり、体験しながら知ることのできる読書活動支援ソフトの普及を図った。
3. 「ほんナビきっず」の更新・普及
子どもがインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによってお気に入りの本に出会うシステムを富士通Japan株式会社とともに開発したが、今年度も図書データの追加更新と普及に努めた。
新刊あらすじ・キーワード データ投入件数：1,619冊
4. 「ドキドキ絵本づくり for Kids」の更新・普及
平成25年度にウェブサイト上で、絵本について学ぶことができ、実際に作ってみることができるコンテンツを「ドキドキ絵本づくり for Kids」として開発したが、今年度はちらしの配布、ワークショップ等を通して普及を行った。

Ⅳ 子どもの本を通じた国際交流事業

海外の作家を招いた講演会の開催、海外への日本の児童文学の情報提供や子どもの本に関する資料の交換を行うことにより、国際的な視野での読書活動推進を行った。

1. 国際講演会とワークショップ（再掲）
 - ①講演会「イタリアの絵本作家フランチェスカ・サンナ 自作を語る」の実施
 - ・開催日：令和5年10月7日（土）
 - ・講 師：フランチェスカ・サンナ（イタリアの絵本作家）
 - ②シンポジウム「中由美子と中国児童文学の世界」の実施
 - ・開催日：令和5年11月26日（日）
 - ・講 師：秦文君（作家、中日児童文学美術交流中心会長）ほか
 - ③ワークショップ「イタリアの絵本作家フランチェスカ・サンナさんと絵本をつくろう！」の実施
 - ・開催日：令和5年10月8日（日）
 - ・講 師：フランチェスカ・サンナ（イタリアの絵本作家）
2. リンドグレーン記念文学賞（ALMA）受賞候補者の推薦
児童文学に関する国際的な賞であるALMAの受賞候補者を推薦した。
この賞は、2002年児童文学作家アストリッド・リンドグレーンを記念して、スウェーデン政府が設立した。世界中の子どもが文学への関心を深めること、「子どもの権利」を世界レベルで守っていくことを目的とし、毎年、作家や画家、ストーリーテラー、読書普及活動団体などに贈られる。世界各地に推薦団体がある。

3. 情報、資料交換

当財団の活動及び日本の児童文学の状況について紹介した「IICLO REPORT」(英文レポート)を電子メール等で、海外の児童文学専門機関等に提供するとともに、ホームページで当財団の事業などの情報を提供した。また、海外の関係機関と情報、資料の交換を行った。

資料と情報の交換対象機関

- ①フィンランド児童文学研究所
- ②ミュンヘン国際児童図書館(ドイツ)
- ③スウェーデン児童文学研究所
- ④スイス児童および青少年メディア研究所
- ⑤Seven Stories(英国・子どもの本センター)
- ⑥浙江師範大学 国際児童文学館(中国) 等

V 国際児童文学研究賞(国際グリム賞)事業

世界の児童文学研究に貢献する人々の業績を顕彰することにより、国際的な児童文学研究の振興に寄与する。令和5年度は第19回授賞式と受賞者の講演会を行った。

- ・日時：令和5年2月4日(日)14時~17時
- ・場所：国民會館 武藤記念ホール
- ・演題：「オーストラリアの緑との交流—オーストラリアの絵本における植物と人間のかかわり—」
- ・受賞者：クレア・ブラッドフォード博士(オーストラリア・ディーキン大学名誉教授)
- ・参加者：60人

*主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
一般財団法人 金蘭会、大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

VI 大阪府子ども読書活動推進施策への協力

大阪府が推進する「第4次大阪府子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動に関わる他の団体・組織とともに、府内のすべての子どもたちが本を読む喜びを味わい、豊かな感性をもつことができるような環境づくりに努める。

1. 多言語読書活動推進事業委託業務

府域の外国語のルーツのある保護者や子どもの読書環境の充実に資することを目的して、外国語絵本リストの作成および外国語絵本の選書・購入を行った。

(1) 外国語絵本リストの作成

インドネシア語、スペイン語、ネパール語、ヒンディ語、ポルトガル語の絵本リストを作成した。

(2) 外国語絵本の選書・購入

インドネシア語、ネパール語、ヒンディ語、ポルトガル語、インド諸語などの絵本150冊を選書し、購入した。

VII 研究及び出版等の企画事業

1. 共同研究・調査の実施

当財団職員と子どもの本に関わる分野の専門家が学際的に協働し、研究を行う。研究成果については、学会や「研究紀要」で発表するほか、当財団のホームページに登載するなど広く普及し活用を図った。

(1) 「明治・大正期における児童文学・児童文化史の研究—巖谷小波未発表資料の検討を通して」の調査研究を外部研究者とともに行った。

- ・研究会(2回 ①4月29日~5月2日 於：白百合女子大学、②2023年10月15日)
- ・日本児童文学学会 第62回研究大会 ラウンドテーブル 「巖谷小波の絵葉書から見

- えてくるもの：旅と家族と幅広いネットワーク状況をたどる」報告：遠藤純、大貫俊彦、柿本真代、酒井晶代、中川理恵子、令和5年11月18日、武蔵野大学）
・『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』第37号（8本）
*独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）
（研究代表者：土居安子、令和2～令和5年度）

(2) 「古田足日と子どもの文化をめぐる総合的考察－蔵書・資料のデータベース化、調査を基に」

- *独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）
（研究分担者：宮川健郎、令和2～5年度）

(3) 「冷戦前期・東アジア英米文学のジオポリティックス」

- *独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（B）
（研究分担者：鷺谷花、令和2～5年度）

(4) 「日本における女性映画パイオニア：フェミニスト映画史の国際的研究基盤形成」

- *独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（B）
（研究分担者：鷺谷花、令和2～6年度）

(5) 「国語科教育における「近代童話／童謡」の再評価と新教材の発掘をめぐる調査研究」
（研究分担者：宮川健郎、土居安子、令和4～7年度）

- *独立行政法人 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）

2. 出版企画・展示企画

(1) 「第39回 日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品の出版

- ・童話大賞受賞作品『あたしは本をよまない』（コウタリリン/作、ちば みなこ/絵）
・絵本大賞受賞作品『なんかひとりおおくない？』（うめはらまんな/作）
BL出版（株）と提携 令和5年12月刊行

(2) 博物館、文学館等における展示企画

- ・タイトル「子どもの本のはじまり－三宅興子英語圏児童文学コレクションから－」
・会 期：令和5年11月10日（金）～12月27日（水）
・場 所：大阪府立中央図書館 展示コーナー
・内 容：三宅興子寄贈英語圏児童文学コレクションの展示
・対 象：大人と子ども
*主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館
*協 力：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

3. 論文集「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第37号の発行

- 公募論文 2本
共同研究メンバーによる論文など 8本 計10本掲載

4. 報告集の発行

- ・『2022年度国際交流事業報告集 国際講演会「日本の子どもの本に描かれる「西洋」のイメージ－石井桃子翻訳作品からはじめて－」（講師：スティーブン・チェ）』

5. 特別研究員制度の活用

財団が企画・実施する研究に対して、共同・協力して研究を行おうとする外部研究者を特別研究員とする。

今年度は9名。上記1の共同研究等への協力を得た。

VIII 児童文学等に関する図書、記録その他の資料の収集

児童書、および児童書に関する資料について幅広く寄贈を受けた。寄贈された資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館 国際児童文学館に引き継いだ。

- ・日本及び外国の児童図書
- ・児童文学・児童文化に関する研究書
- ・整理業務及び閲覧に必要な参考資料
- ・上記についての雑誌、新聞等の逐次刊行物

IX 子どもの本の文化の振興・発展に関する事業等

企業や支援者・団体等と連携を図り、子どもの本の文化の振興・発展に関するさまざまな事業に取り組んだ。

1. 雑誌『少年少女 漫画と読物』、『漫画少年』、『少女画報』等のデジタル化
大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵の明治・大正・昭和初期の子ども向け雑誌の保存のためのデジタル化を行った(4誌+遡及分5誌 173点)。また、その内容細目のデータ化を行い、データをメディア芸術データベースへ提供した(12,944件)。
*文化庁文化芸術振興費補助金メディア芸術アーカイブ推進支援事業
2. 情報発信事業
 - (1) ホームページの作成
ホームページを日常的に更新し、以下の活動を行った。
 - ①当財団の事業、研究成果などの紹介
 - ②「ほんナビきっず」の管理・運営
 - ③「子どもの本 いま・むかし」「本の海大冒険」「日本の子どもの本100選」「ドキドキ絵本づくり for Kids」「マンガのひみつ大冒険! おすすめマンガがいっぱい!!」の管理・運営
 - ④国内の児童文学・児童文化関連事業の情報収集・発信
 - (2) メールマガジンの発行
毎月1回(20日頃)発行。
登録会員数:4,241人 (令和6年3月21日現在)
 - (3) YouTubeでの情報発信
子ども向け新刊紹介である「YouTube 版本の海大冒険」(週1回)と大人向け「新刊子どもの本ここがオススメ!」(月1回)を発信した。チャンネル登録者数:2010人(令和6年5月31日現在)
 - (4) SNSでの発信
財団業務日に毎日1回以上発信。X(旧ツイッター)フォロワー数:1,187(令和6年5月31日現在)
3. 広報活動
 - (1) 報道機関等への情報提供
報道機関等へ事業等について積極的に情報提供を行うほか、大阪府のホームページなどの広報媒体への資料提供を行った。
 - (2) レポートの発行
財団の1年間の活動状況を報告するレポート「大阪国際児童文学振興財団 REPORT No.13」を発行した。 年1回
4. 寄付金募集
財団事業を充実させるとともに、児童文学に関わる方々や企業・団体とともに事業展開を進めるため、財団を支援いただけるように寄付を呼びかけた。特に、厳しい財政状況を改善するため、寄付を募り、キャラクターグッズのプレゼントを行った。

令和5年度実績 309件 3,482,095円

[収益事業の部]

I 企業等が行うイベントや出版・展示に協力する事業

子どもの本の発行や、子どもと本を結ぶ事業を行なおうとする企業・団体等から業務委託を受ける。

○出版企画等

(1) 出版社等による図書出版にかかる企画・制作業務の受託

博文館創業120周年記念「少年少女譚海」の復刻のための調査、企画会議等を行った。

委託元：株式会社 博文館新社

(2) 出版社等による図書出版にかかる企画協力

・「コープのえほんでスマイル」絵本選定、ガイドブック原稿作成

委託元：大阪いずみ市民生活協同組合

(3) 出版社等による図書データ作成・企画協力業務の受託 計1件

・「進研ゼミ電子図書館 まなびライブラリー」掲載図書の選定等を行った。

委託元：株式会社 ベネッセコーポレーション

(4) 出版社等による企画協力業務の受託 計2件

・「子ども文庫助成事業」の助成団体の選定を行った。

委託元：公益財団法人伊藤忠記念財団

・「産経児童出版文化賞」の選考委員として審査を行った。

委託元：産経新聞社

II 出版物の販売及び著作権管理にかかる事業

1. 当財団発行の出版物の販売

事業報告集や「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」等を販売した。

講演会等報告集 198冊

研究紀要 18冊

2. 著作権管理に関する事業

「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品等の著作権管理を行った。

III 児童文学等に関する寄贈図書資料受入事業

大阪府立中央図書館から寄贈資料の受入れに関する業務を受託し、出版社等からの寄贈資料にかかる受入れ業務を行った。受け入れた資料については図書館に引き渡し、図書館内部の手続きを経た後、大阪府立中央図書館 国際児童文学館に受け入れられた。

引渡件数：図書 3,996冊 雑誌 2,954冊 その他資料 1,198点 計 8,148点



令和5年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので作成しない。

令和6年6月

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団